▶東雲を見つめて

夢に向かって

長期研修生　竹　森　文　美

平成21年４月。私は，東雲小学校に来させていただくことになった。春休みの東雲小学校は静まりかえって何だか寂しい。転勤は何度か経験したが，子どもたちのいない時間はやはり不安で，妙に長く感じた。

始業式当日。子どもたちは，グランドでボール遊びをしたり，おにごっこをしたりしていた。子どもたちのはしゃぐような元気のいい声。走り回ってグランドを踏みしめる音。それら全部合わさった東雲小の元気な音を聞いていると，私を励ましてくれるようで不安な気持ちも少しずつ和らいでいった。

１ヶ月がたったある休憩時間，何気なく数人の子どもたちと話をしていた。その話は，気がつくと将来の夢についての話題になっていた。すると，

「ぼくはね，将来お医者さんになりたいんだ。」

「私は，建築家になりたい…。」

将来を語るときの子どもたちの目は輝き，その夢に向かって頑張ろうとする力強さが感じられた。私はその姿に感激しながら，ふと自分自身のことを思い出していた。

私が教員を目指していた大学生の頃，バブル経済の時代で，日本企業がどんどん海外へ進出していた。海外留学する友だちもおり，外国との心的距離は短くなっていた。そんな頃「私も海外で仕事がしてみたいな。」とおぼろげな夢をもっていた。自分が知らない世界を体験してみたいという好奇心から湧いた夢だ。だが，「海外での仕事なんて，どうせ無理だろうな。教員になれば，なおさら無理だ。」と思っていた。

しかし，教員になって11年目を迎えた頃，幸運にも，マニラ日本人学校で勤務するという話が飛び込んできた。私は夢が叶ったという大きな喜びと驚きでいっぱいになった。そして，「大変なこともあるだろうが，頑張ろう。異文化の体験を積み，自分自身を成長させよう。」と未だ見ていない世界を前に，ワクワクした気持ちでマニラ日本人学校に赴任した。

学校近くの公園

交流授業

マニラの４月は，ちょうど真夏にあたり，太陽の日差しが厳しい。とにかく，「暑い」ではなく，「熱い」というのが第一印象だった。学校の様子はというと，今まで勤務した学校とは勿論違う。４月には桜ではなく，サンパギータという南国の花が甘いにおいで包みながら新入生を迎えてくれる。授業はというと，週１回１年中通して水泳の時間がある。プールの水は，お風呂を感じさせるくらい温かい。年間行事を聞くと，１月に運動会があり，書き初め練習と運動会の練習が重なるという。こんなユニークな経験もマニラならではの醍醐味である。しかし，マニラでの生活が始まって３日も経たないうちに，私の思いはすっかりと変っていた。マニラと日本との違いを楽しむ心の余裕はなく，不安と戸惑いの気持ちになっていたのである。学校の職員は日本全国から集まっており，方言も違い，仕事の仕方も違っていた。職場にはフィリピンスタッフも多く，意思疎通を図ろうとすると英語かタガログ語をつかわなければならない。英語が全くできなかった私は，伝えたいことが十分に言えないストレスと自分の力不足を情けなく感じていた。さらに，そんな思いは，学校を離れた私生活にもあった。街に出ると，日本との生活の違いは多い。例えば，一人でレストランへ行ったときのことである。注文は何とかできたものの，料金の支払い方が分からなかった。英語の苦手な私は聞くことさえ怖くてできない。仕方なく，財布を持ってレジまで歩いていき，そこでお金を払うことにした。支払いをしながら，レストランのスタッフから何だか変な顔をされ，恥ずかしかったことを覚えている。あまりにも大きな環境の変化に圧倒され，私はまるで子どものように感じ，思い描いていた世界とは違う現実の厳しさを痛感した。そして，マニラに来てしまったことを心の底から後悔し，日本人学校での任務終了の日を果てしなく遠く感じていた。

しばらくしてから，私が担任していた１年生のクラスに女の子が転入してきた。私は，お母さんと女の子がいた部屋に入り，女の子に話しかけた。女の子は「ふんっ。」という顔をして，話をしようとしなかった。その態度にとても驚いたが，気を取り直してお母さんと転入に関わっての話をした。その話が終わると，お母さんの方から

「実は，この子は大好きな友だちと別れてしまってとても寂しく思っているんです。その子とは，毎日のように遊んでいましたから。」

と言われた。私は，この子が「ふんっ。」しか言えない気持ちがよく分かった。そして，そっと見守ろうと思った。２～３ヶ月たった頃，氷が溶けるようにその子の表情が和らいでいった。周りと楽しく話すことが増え，よく笑い，転入してきたときとは表情がガラッと変ってきた。この女の子の変化を振り返りながら，小さいながらも一生懸命に新しい環境で頑張ろうとしていたことを改めて感じ，それが私の心に一つの元気と勇気になっていた。

３年後，私はマニラでの勤務を終え，帰国することになった。帰国するまでに，私はたくさんの元気と勇気をもらっていた。数多く大変だと思う経験をしたマニラ，あれだけ逃げ出したいと思っていたマニラだったのに，いざ帰国するとなると離れることが残念でたまらなかった。

東雲小での授業

東雲で迎えた４月は，マニラに赴任したときの気持ちに似ていた。新しい環境に入り，不安な気持ちが似ていた。そのとき，一方で東雲の子どもたちから元気をもらっていた。しかし，もう一方でマニラでの経験が私を支え，勇気をくれていたような気がする。そして，４月から半年たった今，東雲小からたくさんの元気と勇気をもらっている。

目をキラキラと輝かせ，希望に満ちた東雲小の子どもたち。子どもたちが向かっている道は楽なことばかりではなく，幾度となく困難にぶつかることがあるだろう。そんなとき，同じように困難にぶつかっていた人がいることを思い出してほしい。そして，自分が納得できる挑戦をしていってほしい。私は，夢に向かって頑張ろうとするみなさんを応援している。

東雲小のみなさん，自分の夢に向かって頑張れ！ そして，貴重な半年間をありがとう！